



サワギキョウ

1、2018 年の大規模植生回復作業を開始します！

葦毛湿原の大規模植生回復作業も平成 24 年度から開始し、今年で 7 年目になりました。今年度も 11 月 6 日（火）から作業を開始します。作業は 11 月から 2019 年 3 月まで、年末年始を除く毎週火曜日の 9～12 時、毎月第 3 日曜日の 9～12 時に行います。

また、葦毛湿原と同様の植生回復作業を行っている豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、11 月から毎月第 1 日曜日の 13～16 時に作業を行います。これ以外にも作業の進行状況を見ながら随時必要な作業を行う予定です。

どちらの作業も公開しており、葦毛湿原では木道の上から、ナガバノイシモチソウ自生地はフェンスに囲まれているのでフェンス越しになりますが、自由に見ることができます。興味のある方は是非ご覧ください。

昨年は本活動が平成 29 年度日本自然保護大賞に**入選**し、多くの方に関心を持っていたできるようになりました。「**土壌シードバンクの埋土種子を活用した湿地の再生**」という新たな取り組みを、さらに多くの方に知っていただきたいと思います。

また、植生回復作業に参加いただけるボランティアも募集しています。興味のある方は豊橋市文化財センター（0532-56-6060）までご連絡下さい。

2、バックホーによる作業－1（作業計画概要）

葦毛湿原では昨年バックホーによる作業で一の沢湿地の抜根とコシダの根の層や堆積して乾燥化したミズゴケの除去、新たに伐採した O・X・Y 地点の抜根やコシダの根の層等の除去を行いました。

今年は昨年と同様に作業期間を 2 期に分けて行います。第 1 期は 12 月 3～7 日の 5 日間を、第 2 期は 2018 年の 2 月の上旬から中旬の 5 日間程度を、作業時間は 9 時～16 時 30 分を予定しています。雨天の場合は延期していることがあります。

今年も豊橋湿原保護の会がセブンイレブン記念財団から助成金を受けることができ、バックホーによる作業を大きく進めることができるようになりました。葦毛湿原で行っている大規模植生回復作業では、バックホーを使って良好な湿地だった頃の地表面の上に溜まった堆積物を丁寧に除去することが、湿地を再生する際に最も効率的で重要な作業だということが分かりました。人力だけでは到底できない作業です。今年もバックホーによる作業を大きく進め、湿地再生のスピードを上げていくつもりです。

バックホーによる作業は公開しており、木道の上からでも十分に見ることができますので、ご自由に見学して下さい。研究者の方や行政で文化財保護を担当しておられる方、湿地保全にかかわっておられる方で作業内容について現地視察の希望等がある場合は事前に豊橋市文化財センター（0532-56-6060）までご連絡下さい。できる限り対応させていただきます。

なお、バックホーによる作業の目的や方法の詳細については葦毛通信 No. 57 で紹介していますのでご参照ください。

3、2018モニタリング報告－4

1) H地点

H地点は葦毛湿原の中でも最も西側で一の沢の下流部にあたります。昨年は木の伐採作業が途中で終了したところでした。抜根作業を行っていないので湿生植物の復活は多くありません。今年度の作業で抜根とネザサやコシダの根の層を除去する予定ですので、来年には多くの湿生植物が復活すると予想されます。

右上写真は伐採直後の写真で、上流から下流を見たところです。木道の左側（西側）が木を伐った部分で切り株が目立つ状態です。地表面にはネザサの根の層が覆っており、チャートの礫が目立つ裸地状態にはなっていません。木道右側はかろうじて湿地状態を保っていたところで、ヌマガヤが優占する群落になっています。

右下写真は伐採後7か月ほどたった状態です。木道左側にはネザサやコシダが復活し、切り株からはヒコバエが伸びています。

下左写真はH地点の下流から上流を見たところです。中央付近



H地点伐採作業直後（南から：2018年4月5日）



H地点（南から：2018年10月23日）



H地点伐採作業直後（北から：2018年4月5日） H地点（北から：2018年10月23日）

のマツの右側の切り株があり礫が見えているところが伐採を行った林縁部です。まだ伐採途中で右側の木は今年度の作業で伐採する予定です。マツの左側や手前は湿地として残っていた部分で、ヌマガヤの群落の中にネザサが侵出していました。

上右写真は伐採7か月後の状況です。現在はヌマガヤ群落の中にネザサが侵出している作業前と同じ状況になっています。奥の伐採した部分はネザサの群落になっています。

下左写真はH地点の中央部です。木道から左側が木を伐採した部分ですが、木道から中央までの画面の半分ほどの幅の木道沿いにカヤツリグサやイグサの仲間、イヌノハナヒゲ等が発芽してきています（下右写真：近接写真）。この部分は水分が多く、今年度抜根作業を行えば良好な湿地に戻ると予想しています。

中央から左側には湿生植物はほとんど見られませんが、おそらく抜根作業後は左端の伐採していない木のあたりまで地表面に水があらわれ、湿地に復元されると予想しています。



H地点中央（南から：2018年10月30日） **H地点中央（西から：2018年10月30日）**

2) J地点

J地点は天然記念物指定地の北西部分にあたり、木道の右側数mの幅で木道に沿った部分が指定地で、その右側は民有地です。去年は隣接した民有地に関しても地権者の方のご協力をいただき指定地内と同様の植生回復作業を行ったところです。

右写真は指定地の北西隅から南を見たところで、木道から右に5m程度が湿地として残っていたところです。この右側はササが優勢になっていました。

伐採作業後、地形の状況がわかり、画面右と奥に向かって緩やかに高くなっているのが確認できました（右上写真）。一部では、人為的に土が動かされ低い山になっているところも見られました。画面奥の森との境付近では、かつて湿地だったところに土が積まれている部分が見られ、この積まれた土を除去し、良好な湿地だった頃の地表面を検出できれば、湿地を復元できると予想しています。今年度の



J地点伐採作業直後（北から：2018年4月5日）



J地点（北から：2018年10月23日）

バックホーによる抜根作業の時に合わせて人為的に積まれた土の除去を行う予定です。

前頁下写真は木の伐採作業後7か月ほどたった状況です。木道沿いの湿地として残っていた部分以外は、ほとんどがササに覆われてしまいました。



J地点伐採作業直後（南から：2018年4月5日） J地点（南から：2018年10月23日）

上写真はJ地点を南側から見たところです。木道の左側（西側）がJ地点で、奥にやや高くなっているところが人為的に土を積み上げた部分です。現在はほとんどがササに覆われて土の山が見えなくなっていました。



J地点内部の湿地伐採直後（北から：2018年4月12日） 同（2018年10月23日）

J地点西側の南西部には地表面に水が見られ湿地状になっているところがありました。7か月後の現在は、イグサの仲間やイヌノハナヒゲが見られ、春にはミズギボウシも発芽しました。この部分の東側は少し高くなっており乾燥していますが、この低い山は人為的に土が積み上げられたようです。この山も試掘して除去すれば、湿地に戻り左右の湿地部分とつながると判断しています。

3) カモシカの食痕

右写真はアカメガシワとカラスザンショウです。葉柄が斜めに食いちぎられており、ニホンカモシカの食痕の可能性が高いと判断しています。J地点は明るく見通しが良くなり、カモシカの採餌場に適した条件になったようです。



食痕のあるアカメガシワ（左）とカラスザンショウ（右）